第 18 回小田原市新しい学校づくり検討委員会の開催結果

１　日　　時　　令和７年２月 12 日（水）　14:00～15:00
２　場　　所　　オンライン（zoom）による開催
３　出席委員　　10 名（委員名簿順）
　　内山絵美子委員、遠藤新委員、久田由佳委員、
　　竹内昌義臨時委員、木村秀昭委員、浜口勝己委員、
　　村上晃一委員、木村元彦委員、山本加世委員
４　欠席委員　　柳澤要委員、中谷彰吾委員
５　出席職員　　柳下教育長、菊地教育部長、有泉教育部副部長、
　　岡田教育総務課課長、志村学校施設担当課長、
　　中津川学校設備担当課長、吉澤保健給食課長、
　　中山教育指導課課長、松澤教育相談担当課長
　　嵯峨教育総務課副課長、村田教育総務課学校施設係長
６　傍 聴 者　　０名
７　内　　容　　（１）　開会
　　（２）　議事
　　ア　諮問について
　　イ　新しい学校づくり施設整備指針（素案）について
　　ウ　モデル地域での検討結果について
　　エ　その他
　　（３）　閉会

８　配布資料　　資料１－１　小田原市新しい学校づくり施設整備指針について（諮問）
　　資料２－１　前回検討委員会での主な意見
　　資料２－２　新しい学校づくり施設整備指針（素案）
　　資料３－１　モデル地域での検討結果について
　　参考資料１　ワークショップ報告会（２月４日実施）説明資料

会議録

〇事務局

第18回　小田原市新しい学校づくり検討委員会を始めさせていただきます。本委員会につきましては、お手元の会議次第により進めさせていただきます。

初めに配布資料の確認をさせていただきます。資料１－１「小田原市新しい学校づくり施設整備指針について（諮問)」、資料２－１「前回検討委員会での主な意見」、資料２－２「新しい学校づくり施設整備指針（素案)」、資料３－１「モデル地域での検討結果について」、参考資料１「ワークショップ報告会（２月４日実施）説明資料」となっています。

本委員会の会議につきましては、委員及び臨時委員の総数11名のうち、９名のご出席を頂いておりますので、委員会規則第５条第２項の定足数に達しており、会議が成立しておりますことをご報告させていただきます。

本日は柳澤委員長がご欠席のため、ここからは副委員長に議事の進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

〇内山副委員長

それではこれより議事を進めてまいりたいと思います。本日の委員会につきましては小田原市審議会等の会議の公開に関する要綱に基づき公開するものとします。

本日の傍聴希望者の有無について、事務局から報告をお願いします。

〇事務局

本日の傍聴希望者は０名です。

〇内山副委員長

これ以降、傍聴希望のある方がお見えになりましたら、随時対応をお願いします。

それでは次第に沿って進めさせていただきます。

次第２、議事（１）小田原市新しい学校づくり施設整備指針について（諮問)、につきまして説明をお願いします。

〇教育長

それでは諮問文を読み上げさせていただきます。

小田原市新しい学校づくり検討委員会委員長様

小田原市新しい学校づくり施設整備指針について（諮問）

小田原市新しい学校づくり検討委員会規則第２条の規定に基づき、次のとおり諮問します。

１.諮問事項　小田原市新しい学校づくり施設整備指針について

２.諮問事由　令和５年 12 月に策定した小田原市新しい学校づくり推進基本方針を踏まえ、施設・設備の機能水準や諸室の種類や数、面積、仕様等の基準、整備

手法等を示す小田原市新しい学校づくり施設整備指針について諮問する。
令和７年２月 12 日　小田原市教育委員会

以上でございます。

〇内山副委員長
ただいま、新しい学校づくり整備指針に関する諮問がございました。これを受けまして今後の議事を進めたいと思います。
それでは次の議事に移ります。
議事（２）新しい学校づくり施設整備指針（素案）について事務局からご説明をお願いします。

〇事務局
資料２－１「前回検討委員会での主な意見」をご覧ください。前回の委員会でいただいたご意見と回答、それを踏まえた対応についてまとめたものになります。変更した箇所等についてご説明いたします。
５ページをご覧ください。前段として、整備指針に記載された項目全てを個々の整備に反映させると、費用がかかり過ぎるのではないか、優先順位付けが必要ではないか、という議論がありました。整備指針は、本市が今後行う改築等に際し、全てを個別具体に計画、設計していくのは効率的ではないという観点から、本市が考える学校施設の整備基準や機能水準を総論的に示すものでございます。
当然、個々の学校では、校地等の与条件や関係者のニーズ等に違いがありますので、実際の学校別の計画、設計の段階では、この整備指針の内容をベースに、条件の精査や利用者の意見等も反映しつつ、取捨選択や見直しを経て、個別の整備内容をまとめていくものと認識しております。こうした意図を補記した方がいいのでは、という竹内委員のご意見を踏まえ、整備指針において、２カ所加筆修正をいたしました。資料２－２「新しい学校づくり施設整備指針（素案）について」を併せてご覧ください。30 ページ、第４章１（２）に、赤字のとおり文章を追加いたしました。また、43 ページ、第５章冒頭に、赤字の記載を追加いたしました。
資料２－１にお戻りいただき、６ページをご覧ください。市民向けの周知方法について、でございます。第 13 回検討委員会で町田市が作成した「新たな学校づくり」の事業全体を周知する市民向けパンフレットをご紹介いたしましたが、同様に、本市の「新しい学校づくり推進事業」は基本方針、基本計画、整備指針一体での事業であり、基本計画も合わせた形で、対外的な情報発信を作りこむべきと考えておりますことから、整備指針単体での概要版作成は行わず、基本計画公表の段階で、一体的な周知の方法を整理してまいりたいと考えております。
その他のご意見につきましては、現在作成中の資料編等に反映させる方向で検討しております。次回検討委員会までに、委員の皆様と共有したいと思います。

整備指針本編につきましては、次回検討委員会において改めて「答申案」としてお示しし、その後、答申を行う予定です。
　説明は以上でございます。

○内山副委員長
　前回、委員の皆様からあがったご意見をふまえて、一部変更・修正を加えたということです。
　また、本体ではなく資料編として反映させる部分もあるということでした。
　次回は答申案を示されるということですが、委員の皆様から意見や質問があればお願いいたします。

○竹内委員
　前回の修正点を反映していただいたので、これで良いと思います。ありがとうございました。

○内山副委員長
　よろしいでしょうか、それでは次の議事に移ります。
　議事（３）モデル地域での検討結果について事務局よりご説明をお願いします。

○事務局
　９月以降、東富水・富水・桜井地域で行ってまいりました、ワークショップの実施結果と、実施する中で得られた成果や課題等についてご説明いたします。これらの課題等と、本日の意見交換の内容等を踏まえて、４月以降の検討委員会におきまして、基本計画に盛り込む「合意形成プロセス」のイメージ等について、改めてお示ししたいと考えております。
　初めに、参考資料１をご覧ください。去る２月４日に開催した、ワークショップの報告会で使用した、ワークショップ全体の概要等をまとめたものでございます。２ページのとおり、９月以降、12 月までに４回のワークショップと、報告会を１回実施いたしました。以降、抜粋してご説明いたします。
　４ページ以降、10 ページまでは、地域の現状等をまとめております。６ページに、児童生徒数・学級数推計を記載しております。これによると、２つの中学校区のうち、城北中学校区については、城北中学校と報徳小学校で、今後 10 年以内に小規模校となる見通しとなっております。
　11 ページからは、今回のワークショップでお示しした、地域の学校配置のイメージをお示ししております。当初、３つのケースを事務局からお示ししましたが、参加者からの意見を受けて、最終的には１ケース追加し、合計４つのケースで検討しました。13 ページのケース１及び 14 ページのケース２は、現状４小学校２中学校を、３小学校１中学校とするもの、15 ページのケース３は城北中学校区の２

小学校１中学校を小中一貫校１校とするもの、16ページのケース４は、泉中学校区も同様に小中一貫校とし、地域で小中一貫校２校とするものです。ケース４が、追加されたものとなります。

17ページからは、全４回のワークショップの概要と、そこであがった主な意見等についてまとめております。第１回はテーマを設定しない意見交換、第２回は学校と地域の関係、第３回は通学をテーマにグループワークを行い、第４回は全体のまとめ、という流れで実施しました。全体を通して、遠藤委員にはアドバイザーとしてご参加いただき、グループワークのファシリテーターとして研究室の学生の方々にもご協力いただきました。また、久田委員は第１回及び第２回、山本委員は第２回にご参加いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

46ページからは、全体を通して意見が多くあがった論点等についてまとめております。事務局が想定していたよりも、関係者の方は「通学」を重視していたこと、また小中一貫については、特色ある教育が行えるのではないかという意見とともに、人間関係の固定化や運営面の変化に関する懸念等の意見もありました。加えて、本ワークショップの主旨や前提等に対する厳しいご意見も多くいただきました。これらについては、後ほど詳しくご説明いたします。

次に、資料３－１「モデル地域での検討結果について」をご覧ください。

１ページは、２月４日に行った報告会で、参加者の方からいただいたご意見をまとめたものでございます。特に、ワークショップ参加者からは、ワークショップの主旨や事務局の意図が見えず、仮定の中で議論が進んだことで、議論が深まらなかった、といった意見を多くいただきました。

２ページは、各回の振返りをまとめたものです。各回において、インプットの時間が十分取れなかったことから、前提条件に関しての疑義や、ファシリテーターのまとめ方が実際の議論と乖離していたのではないかという疑問など、様々なご指摘・ご意見をいただいたところですが、何よりも、今回のワークショップで提示した学校配置は、委員会等での検討を経たものではなく、あくまでもイメージ、仮定、という前提で示していたことや、付随する様々な論点に対して、事務局が確定事項としての回答をできない場面があまりにも多く、その点が、参加者が徐々にフラストレーションを感じてしまった大きな要因であったと認識しております。

３ページ以降は、項目別に課題抽出と対応策を整理しております。まず、参加者の選定や実施形式についてです。今回は、地域関係者としてまちづくり委員会からの推薦者、保護者として各校PTAからの推薦者、教職員（校長）、公募市民の計４つの属性で実施しました。公募において、保護者世代の方にご参加いただいたのは良かったと考えており、公募は今後も何らかの形で取り入れていきたいと考えております。一方で、全体の年齢層が高かったこと、児童生徒や未就学児の保護者が参加しづらい設定となってしまったことが、今後に向けての課題と考えております。また、この地域は対象校が比較的少ないことから、人数もそこまで

多くはなりませんでしたが、他地域はさらに想定されるステークホルダーが多くなる可能性が高いことから、一堂に会したワークショップのような形式以外に、広く意見を聞く場づくりということも必要になると考えております。

４ページは、広く意見を聞く場としての「オープンハウス」、５ページは児童生徒向けのワークショップの事例を紹介しております。学校づくりに関する合意形成は「当事者」なきプロセスとなりがちなので、少しでも当事者に近い世代として、子供たちの意見を聞く機会というのはやはり重要であると認識しております。反面、「学校配置」をテーマとしたワークショップを子供たちに設定するのは難しいことも考えられ、場面、テーマの設定は今後の検討課題と考えております。

６ページは、日時・場所の設定についてです。保護者は仕事があるため、平日夜間が参加しやすい一方、校長先生からは、平日夜間の実施について、業務負担が大きいといったご意見もいただきました。このほか、１回２時間は長すぎるというご指摘もありました。また、実施する場所の広さ、明るさなど、「場」の印象というのも重要と感じましたので、実施場所の選定についても慎重に検討する必要があると考えております。

７ページ、８ページは運営についてです。インプットが不十分だったこと、各回のテーマ設定やファシリテーターの位置づけなどが主な課題でした。特に、インプットについては、仮にワークショップを複数の属性の方々に集まっていただいて行うとしても、事前の説明や疑問点を解消するプロセスについては、属性別に丁寧に行うということも必要ではないかと考えております。また、報告会は、今回はワークショップ参加者以外の方をターゲットとして、平日昼間に実施しましたが、ワークショップ参加者からは、なぜ自分たちが参加できない時間帯に設定したのか、という意見を多くいただきました。この点も、参加者に対してのフィードバックなのか、広く成果発表をする場なのか、という報告会の位置づけを明確に打ち出していなかったことによるものと思いますので、報告会を行う際は、主旨、位置づけ、ターゲットを明確にすることが重要と考えております。

９ページは、全体評価と今後の対応についてまとめたものでございます。

多様な属性の方が集まり、多様な視点の意見を多くいただけたことは、今回のワークショップの大きな成果と考えております。この場でいただいたご意見は、今後の配置案の検討に最大限反映させてまいります。

一方で、前提条件や配置案を対外的に明確に説明し、参加者の疑問等に明確に答えられないと、合意形成に結びつく成果に近づくことができない、ということが改めて分かりましたので、今後、配置案を、与件や背景情報をもとに丁寧に固めていくこと、また教育委員会内はもちろんのこと、庁内全体で対応できる体制を整えていくことができるよう、引き続き、検討・調整を進めてまいりたいと思います。

説明は以上です。

○内山副委員長
　ありがとうございました。
　ワークショップという手法を用いて昨年９月から検討を行い、そこで出た課題等を報告していただきました。
　全体としては事務局として学校配置やそれに関する論点、方向性が定まっていない中で、ワークショップが行われたこともあり、参加者から意図や方向性について共有しきれていない部分もあり、モヤモヤした部分があったという意見もあったとのことです。他の反省も含めて今後のワークショップの手法やその他の手法など、今後、どのような合意形成プロセスが良いのかブラッシュアップしていくということでした。
　今回のワークショップであげられた地域の課題については、他の地域の課題にもつなげていくことになります。
　参加されていた方からワークショップの評価やご意見を頂けたらと思います。

○木村秀昭委員
　ワークショップの報告としては、参考資料の内容に尽きるかと思います。ただ、「(配置案等について）このようにしていく」というところまで踏み込めなかったという気がします。ワークショップでいろいろなことを話すといっても、何を話すのかが固まっていないのではないかといった意見が、参加者からありました。今後、他の地域でワークショップを行う時に、何かを決める場ではないとしても、何を話すのか、何を検討するのかを明確にする必要があるということは、私も他の参加者と同じ感想を持ちました。
　今回の地域は３つの地区で、もともと団結心が強いという良い面もあったため、反発的な意見はあまり出ず、20～30 年後の状況についても共通認識はありましたが、それでも何を話すのかがあったほうが話しやすいと感じました。
　開催後の参加者からは、終わってほっとしたといった感想が出ていました。

○内山副委員長
　前回の会議で与件について話し合いがあり、小中一貫についてもすぐには進めにくいという話がありました。
　前提となる知識面、インプットの面で参加者の情報にズレがあったと振り返りでもありましたが、議論の内容としてはどうだったのでしょうか。

○木村秀昭委員
　議論についてはグループに分かれての話し合いだったので、話合いは比較的できていたのではないかと思います。ただ、話し合う内容が確定していなかったため、モヤモヤ感という点は皆さん持っていたようです。

○内山副委員長
　今回ワークショップで示された配置案というのは、どれもフラットな関係性で何を優先するといったものがなかったのかもしれませんが、今後は実現可能性のような優先順位がついた案が出てくるのでしょうか。

○事務局
　先日の検討委員会でも全市的な与件の整理が課題としてございます。適正規模やハザード、分散進学等、またペンディングになっている小中一貫など教育のソフト面等について確定していかないと、地域に提示する案はできないと思っています。特に４月以降、検討委員会でも議論していただき、ある程度確定したなかで、配置案の検討になるのではないかと思います。
　また、小中一貫については教育委員会できちんとした形でご提示しないと始まらないと思いますので、事務局でも議論を進めてまいります。

○内山副委員長
　与件が整理されたうえで示されることで、話合いも進むのだと思います。
　他の意見として、参加された久田委員いかがでしょうか。

○久田委員
　私は第１回、第２回に参加いたしました。
　初回は皆さん戸惑いもあったように思いますが、２回目は皆さん自由に意見を出されて、活発に意見交換されていたという印象です。
　今回はトライアルという形でワークショップを行いましたが、事務局がまとめられた課題と今後の方向性が見えてきたことについては良いことだと思います。
　今後については、最終的に配置案を１つに絞る必要があり、市がどのような判断軸を決めるかで、今後明確な話を参加者に示せるのではないかと思いました。

○内山副委員長
　山本委員もご参加されていたということで、いかがだったでしょうか。

○山本委員
　私が話し合いに参加したグループは、自治会長と校長先生がいたテーブルということもあって、個人としては今後どうなったら良いかなという感じで臨んだのですが、会長方から地域の成り立ちや、学区を分けることは難しいという具体的な話をお聞きして、自分の意見は言えないくらい大変なことだということが理解できた感じでした。そんなに簡単なことではないということを感じました。
　大学生のファシリテーターの方が話を引き出してくれたので、雰囲気としては悪くありませんでしたが、一般的な意見としてＡとＢを合わせると良いといった

意見はちょっと難しいということが分かりました。意見というよりは、とても難しいというのを肌で感じたワークショップでした。

〇内山副委員長
「どのようなメンバーで話し合うか」という点についても課題の中に入っていたと思います。参加者についての選定も難しいのではないかと思います。

〇木村元彦委員
私は報告会に参加しました。日程が昼間で、人数も少なかったです。
ご意見を見て思うのは、ワークショップをやってよかったというよりも、要望のような意見もあったと思います。
事務局からもありましたが、ワークショップでは何か実現するような具体的なテーマをあげて話し合うことが大事で、その点があいまいだったということが不完全燃焼に終わっているという感想です。
市で決めること、意見としてあっても変えられないもの、例えば小中一貫校のあり方、カリキュラムについてなど、市としてこのような方針で行うということは、あらかじめ参加者にお伝えして、それについての意見をお聞きする。また、施設の複合化については各地域の要望はワークショップで取り入れていく、といったように、説明する場と検討する場を分けるなど、メリハリをつけると良いのではないかと思います。
また、2030 年頃には新しい学校づくりが始まると思っていましたが、話を聞くと 10～20 年後と先延ばしになっているため、話し合っている人にとっては未来のことになり何を話してよいか、内容が不透明となり、事務局と参加者とのギャップに繋がっていたのではないかと思いました。

〇内山副委員長
ワークショップで何を話し合って、結果何につながるのか見えてくる中で、意見交換ができることが今後のワークショップの理想ではないかと思います。
学校の立場からとして浜口委員いかがでしょうか。

〇浜口委員
皆さんと重なる部分ではありますが、論点となった小中一貫校をやるのかやらないのか、スクールバスをどうするかもありましたが、統廃合した後の対応として大丈夫なのかという点で心配はありました。市では、地域によっては敷地や人数等で絶対に無理といったことがあると思います。そこについて期待を持たせるような内容を出すと反発が出ると思います。
現場としては小中一貫というのは後ろ向きで、新しいことには抵抗が出ます。そのため、どこかで「やる」と決めてもらわないと学校としては前向きになりに

くいです。
　いずれにしても、市である程度は決めていただき、配置案についても多くても３つに絞ってそれぞれの良さや課題を検討してもらうという形にして、そこで出た改善案について市が「できる」、「できない」を判断するといったような、何か焦点を絞って考えていくというのもありではないかと思いました。
　木村元彦委員もおっしゃっていましたが、遠い先の話だと他人ごとになりますので、これから学校に関わる人たちに参加していただけるとありがたいのではないかと思います。地域関係者となると高齢の方が多く、子供を通わせている保護者としては感覚が違う場合もあります。それらを考えると、これからの人たちに多く入ってもらうことも良いのではないかと思いました。

〇村上委員
　今のお話を聞いて、話合いの内容について、焦点を絞ったり、事務局と参加者との思いがうまくかみ合ってなかったりがあるようでしたが、ワークショップを３～４回やるのであれば、そのうちの何回かは属性ごとに検討するのも良いのではないかと思いました。
　インプットに時間がかかったことと、ワークショップで広く意見を求めるのは賛成ですが、それぞれのバックグラウンドが違うので、全てをまとめてやると参加者の意見がかみ合わないまま終わってしまうのではないかと思いました。
　なので、数回はバックグラウンドが同じ方で集まって、テーマについてどう考えているのか方向性を出した後に、全員で集まって検討すると意見が深まるのではないかという気がします。

〇内山副委員長
　多様な属性の方から意見を聞くためには、属性ごとに集まって一度検討するということはあると思います。事務局でもそのような方向で考えているとのことでした。
　また、手法も今回はワークショップでしたが、オープンハウス形式など様々な手法でアプローチして意見を集めることも良いのではないかと思います。

〇竹内委員
　私も皆さんがおっしゃることはその通りだと思います。
　最終的には、今後人口が減ってきたときに、小田原市の学校はいくつになるのかという話だと思いました人口減少もものすごいと思いますが、不登校の問題であったり、教職員の不足の問題を考えたり、整備指針の中で新しい学校の具体の部分も検討していますが、実現には規模が大きく、お金もかかることを考えますと、乱暴な言い方になるかもしれませんが、学校を半分くらいにする勢いでやらないとだめなのではないかと思います。10～20 年後の人口減少や財政面を考えた

場合、総論は賛成だが各論は反対のような場合は良くある話だと思いますが、そうだとしても最終的にどのような形を目指すのか、そういった考えも必要かなと思います。

10 年後の話をするのであれば、10 年後、子供を通わせる人が今何歳なのかを考えると、今の中学生、高校生になりますので、ワークショップをどう考えるのかも大事ではないか、その中で地域の話もありますが、財政が破綻してしまっては意味がないので、関係性についても別の視点で考える必要もあるのではないかと思いました。

○内山副委員長

10～20 年後を想定した時には、ある程度大胆に内容を想定して話を進めるということも必要になるということかと思います。

最後にワークショップを運営していただいた遠藤委員お願いします。

○遠藤委員

ワークショップを行っての課題の分析は事務局から説明があり、その通りかなと思います。

今後は、成案を一つ決めて、それについて話し合っていくといったワークショップの方が良いのではないかと思います。

今回のワークショップのやり方などを市の思いも踏まえて考えると、何かを決める場ではなくて、意見交換や意見出しをするためにワークショップをやるということになるとは思います。

ワークショップにもいろいろあり、何かを深めるワークショップもあれば、深めることができないワークショップもあります。

深めていくというのは何か解決するべき課題があり、解決策を深めていくのが一般的なのですが、深まっていかないものとして、議論がやりづらい時によくあり、多角的な視点から広く意見が欲しい場合や、まとまるか不安だが、意見を出し合って気づきが欲しい時によくあります。今回の件はそれに近く、今後、他の地域で行う時にどのような論点を用意すればよいかを市として気づきを得るために行ったのではないかと思います。

今後は案を一つ決めて、それについて意見を出し合うという形にすればやりやすくなるとは思います。指針の内容も整理でき、配置のための与件も整理できたので、あとは市として各地域での望ましい配置案が出せれば、その案をベースにワークショップ等の意見交換を行えばやりやすいと思いますので、そのように進めていければ良いと思います。

今回のモデル地域での検討を振り返りながら、与件から生まれる課題は何なのか、その解決策は何なのかというふうに進めていけると良いのではないかと思います。

また、参加のしやすい時間や参加者の属性には気を付けていくことは大事だと思います。そのため、同じ内容のワークショップを複数回やっても良いのではないかと思います。

○内山副委員長
報告書を見させていただき、情報発信も大事なのではないかと感じました。
今回の報告会についてどのように周知するのかもそうですし、参加した方へ、自分たちのやったことが今後どうなっていくのかなどのフィードバックも大切だと思います。内容を広く発信していきながら、皆さんでまちづくりや今後の活性化も含めた学校づくりを合わせて考えていくことで、意見交換が活発に行われ、良いまちづくり、良い学校づくりにつながるように話し合いが進むと良いのではないかと思います。
事務局からこれらの意見をふまえて何かありますか。

○事務局
ワークショップで出たご意見も、ただいまいただいたご意見も、合意形成に向けて必要な意見と思っております。4月以降も、事務局で案を作っていきますが、今いただいた意見を踏まえて議論を進めたいと思います。
内容としては、「誰に」、「何を」、「どのような」という点だと思っております。
「誰に」については、どのような世代にどのように集まっていただくのか。「何を」については、小中一貫校といった配慮について、財源的な話も必要だと思います。また学校規模についても教育委員会としては与件からの必要とされる学校数でないと決められない部分はありますが、お話に出た考え方を持つというのは重要だと思っています。「どのように」については、属性別のインプットや議論の仕方もご意見いただきましたので、次に反映していこうと思います。
しかしながら、難しい部分もありますし、地域に入るならば、かなりの局地戦も考えられますので、それもふまえて事務局として準備していこうと思います。

○内山副委員長
ありがとうございました。
それでは次の議事に移りたいと思います。
議事（4）その他について、事務局からご説明をお願いします。

○事務局
事務局から２点、事務連絡がございます。
１点目、会議録については事務局が作成したのち、委員の皆様に確認していただき公開させていただきます。
２点目、今年度最後の第19回検討委員会ですが、３月24日（月）15時～オン

ラインで実施を予定しております。整備指針の答申案をお示しするとともに、基本計画の全体的な枠組みと今後の検討スケジュールについてお示ししたいと考えております。
　また、４月以降の委員会の日程調整も近日中にご連絡いたしますのでご協力をお願いいたします。

○内山副委員長
　何かご質問等、確認したいことはございますか。

○木村元彦委員
　モデル地域での検討結果についてお話したいことがあるのですが、よろしいでしょうか。
　いろいろな意見の中で新しい学校づくりについて、ハコものの話で進んでいるところがあるのですが、参加された方の意見を聞くと、「“新しい学校になる”とはどんな学校なのですか」という趣旨の質問があったかと思います。そのあたりがあまり見えてない部分があり、建物はきれいになるのはわかるが、どんな教育になるのか、教育がどのように変わっていくのか、ということが聞きたいようでした。
　小田原市には教育研究所があるため、新しい学校ができたら、このような良いことができ、教育の質が上がることを言えるようにすると、市民も納得するのではないでしょうか。
　学校の老朽化が進み、人口が減っている中で、統廃合を行うことについて、意外と反対派は少ないと思います。そのため、中身が良ければ賛成は増えると思います。
　教育について 100％賛成はありません。６：４となれば御の字といった議論です。教育研究所を活用してソフト面を検討してもらえると、新しい学校の配置案を示したときにこのような教育をしていくと言えると、説得力が上がると思います。
　後からの発言で失礼いたしました。

○内山副委員長
　ワークショップの意見でも、学校配置やハコものについての話が主になっているという意見もありましたので、質がどのように改善されるのか、新しい教育はどのようなものなのかも併せて考えながら話し合っていければよいと思います。
　それでは以上で予定していた議事は全て終了いたしました。
　それでは進行を事務局にお返しいたします。

○事務局

副委員長、委員の皆様、ご審議お疲れさまでした。

それでは以上で第 18 回小田原市新しい学校づくり検討委員会を終了いたします。長時間にわたりありがとうございました。